

科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：地理情報 ILAS Seminar : Geographic Information			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 小方 登		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	情報メ303(マルチメディア演習 室)		使用言語	日本語	
キーワード	地理情報処理 / コンピュータ・マッピング						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
【授業の概要・目的】							
地理情報処理およびコンピュータ・マッピングの応用。 現実の地理データに基づいて、コンピュータ・グラフィックスを用いた図化と分析の実習を行う。mapRaster2, MANDARAなどの無料もしくは安価に利用できるソフトを利用し、地形・土地利用・衛星画像・人口・経済指標などの各種地理データをコンピュータにより分析する。							
【到達目標】							
地理情報の処理および表示について基礎習得を目標とする。							
【授業計画と内容】							
<p>§ 1 . 現実世界の地理的現象をコンピュータで扱うための、空間データモデルについて考察する。具体的には、ベクトル・モデルとラスター・モデルと取り上げて、両者を比較する。</p> <p>§ 2 . ベクトル・データとして保持される行政区域界のデータと、各行政区ごとの人口・経済指標などの統計データを組み合わせ、空間モデルの適用や統計地図の作成・表示を行う。各自が対象地域・統計データを選び、地図化して考察した結果をレポートする。</p> <p>§ 3 . ラスター・データとして保持される地形データ (Digital Elevation Model : DEM) を利用して、計量地形学的分析 (斜面・曲率の算出) や鳥瞰図の表示を行う。</p> <p>§ 4 . 現在インターネット上でどのような地理データが利用できるかレビューし、それらの作成過程などについて考察する。地形・土地被覆についてのグローバルな地理データを利用し、各自が興味を持っている地域についての地誌をレポートする。</p>							
【履修要件】							
コンピュータに関する予備知識は必要としないので、地理データの処理・分析と可視化に関心のある学生諸君の受講を歓迎する。ただし、2回生以上の受講希望者が多い場合には、小テスト等で選抜し、21名に抑える。この授業は総合人間学部の科目でもあるので、総合人間学部学生については別途選抜を行う。シラバスを参照の上、第1回の授業に出席すること。							
【成績評価の方法・観点】							
出席状況および課題提出							
【教科書】							
使用しない							
ILASセミナー：地理情報(2)へ続く							

ILASセミナー：地理情報(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/>(小方研究室ホームページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

ゼミナールで利用するソフトウェアは自宅でも利用可能なので、担当教員のホームページを参照しつつ、必要に応じ予習・復習すること。

[その他(オフィスアワー等)]

ゼミナールにおいては、毎回の出席が不可欠である。

[主要授業科目(学部・学科名)]